

翠田さんの思い出

佐野 悦三（佐野書店店主）

去る2011年10月7日、会員で船橋市夏見台にお住まいであった翠田丕（みすた ひろし）さんが亡くなられた。享年82歳であった。

翠田さんは、わたしより18歳年上だが、千葉菌の観察会やスライド会にご一緒することはもちろん、二人でよくきのこ採集に出かけた。

一番の思い出は何度も行った富士山でのきのこ狩りである。現地に朝早く着きたいので、早朝、佐倉の自宅を出て、夏見台で翠田さんを乗せ、首都高速・中央高速を経て河口湖インターでおり、急な林道をエンジンでうならせながら登り、3合目あたりの現地に8時半頃に着くのが常であった。

8月後半のマツタケの季節になると、わたし達が現地に着くころには、もう地元の人が大きなマツ

タケを何本も抱えて上から降りてくるのに出くわすこともたびたびであった。立派なマツタケを見せてもらうたびに1本でも良いからマツタケを採ってみたいと思った。

富士山に通い始めた頃のことである。マツタケはもちろん、目指すオオモミタケも採れず、仕方なく車に戻り、シートを倒して休憩していると、森林組合の入山鑑札売りのおばさんが来て、鑑札を買うよう求めてきた。まだ何の獲物もないわたし達は、「見ての通りきのこは一つもとっていない。マツタケやオオ

モミタケが採れる場所を教えてくれるなら鑑札を買う」とおばさんに答えた。おばさんは最初、教えるのを渋っていたが、わたし達が「教えてくれたら買う。教えてくれないと買わない」と何度も繰り返すので、とうとう重い口を開いた。

オオモミタケは、「あんたたちが止めている車のすぐ後ろのモミの植林地で採れる。モミが密生した暗いところはだめで、まばらで明るいところのモミの周り

を丁寧に探すとよい」。マツタケは、「向こうに見える小山（寄生火山）の斜面の上部のコメツガの周りを探すとよい」と教えてくれた。

えーっ！止めた車のすぐ後ろの林でオオ



2007年1月27日のスライド会のあとの懇親会にて

モミタケが採れるんだって？信じられない思いで翠田さんと顔を見合わせた。しかし、おばさんの話は嘘ではないようだった。

さっそく鑑札を購入し、車の後ろに広がる整然と植林されたモミの一本一本の幹の周りを、目を皿のようにして探した。コケがわずかに盛り上がっているところがあった。目を地面につけるようにしてコケのわずかな隙間を覗く。白いものが見える。あった！あった！オオモミタケの幼菌だ！「見つけたよー！」

思わず大声で翠田さんと呼ぶ。それから数本のオオモミタケが見つかり、おばさんに感謝しながら、わたしたちは意気揚々と富士山を後にした。

それからは、富士山に行っても坊主で帰ることはなくなった。もっともマツタケは難しく、一度も採れたことはなかったが。

翠田さん、富士山楽しかったね。たくさんの思い出をありがとう。合掌。